

令和7年度第3回一関市水道事業経営審議会

日 時：令和7年9月30日（火）
午前9時から11時30分
場 所：脇田郷浄水場

次 第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 施設見学（脇田郷浄水場内）
- 4 議題
 - (1) 令和6年度決算の概要について
 - (2) 「水道の未来を考えるワークショップ」の開催結果について
- 5 意見交換
- 6 その他
- 7 閉会

令和7年度第3回一関市水道事業経営審議会

令和7年9月30日（火）

一関市上下水道部経営総務課

目次

- 01 第2回会議の振り返りと本日の会議の到達点について
 - 02 令和6年度決算の概要について
 - 03 「水道の未来を考えるワークショップ」の開催結果について
-

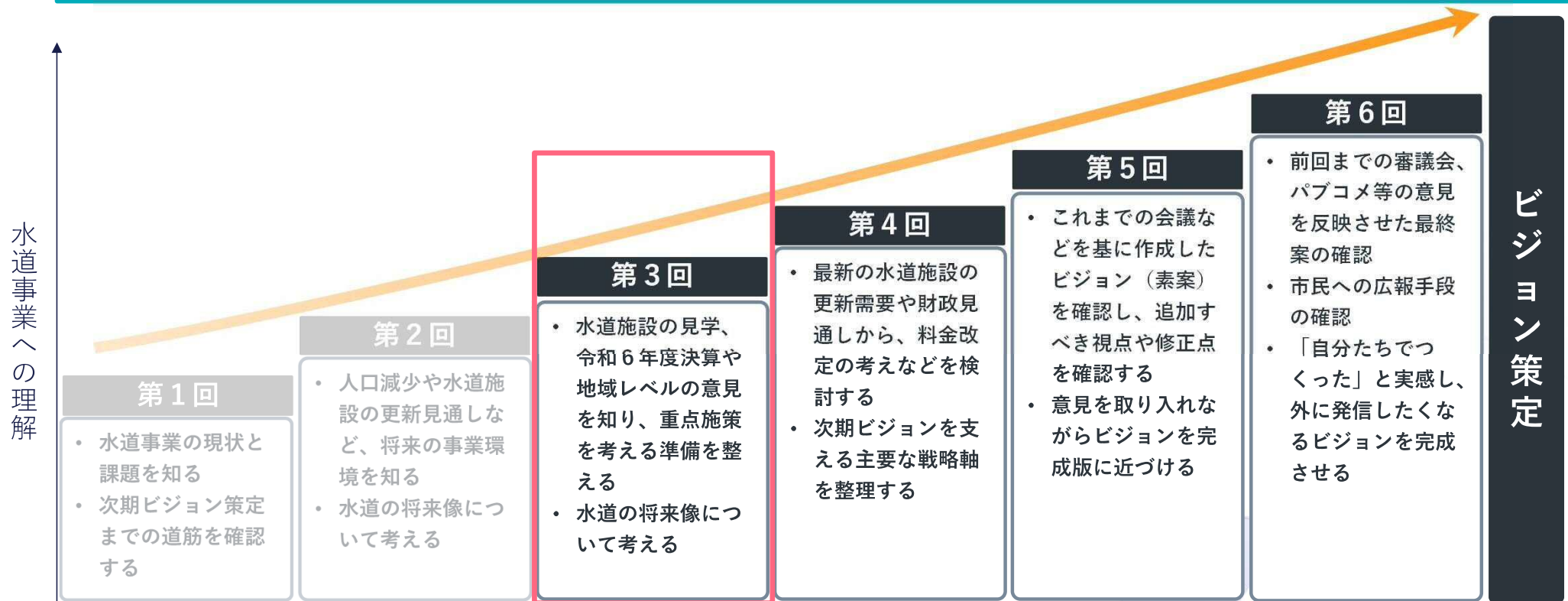
01 第2回会議の振り返りと 本日の会議の到達点について

第2回会議の概要

	内容
1 開催日時	令和7年7月7日（月）午後3時から午後4時52分
2 開催場所	一関市役所 議会棟議員全員協議会室
3 出席委員	10名（欠席5名）
4 議題	水道事業の将来の見通しについて
5 主な質疑等	- 人口推計だけではなく、集落（戸数）を基準とした推計はあるのか。 → 個々の集落がどのようなかという推計はなく、推計そのものも難しいと考えている。 - 経営比較分析表は外部へ委託して作成しているのか。また、類似団体の定義は人口が類似しているということなのか。 → 経営比較分析表は、市が作成している。類似団体は、給水人口によって区分されている。 - 東京都では、水道料金の基本料金を4か月間無償化するという報道を見たが、水道料金の無償化は財政に余裕のある自治体だからこそ可能であり、格差是正の仕組みが必要だと感じた。 - 他事業体の計画策定で模範となるような例があれば情報提供をいただきたい。 → 県内では、矢巾町の住民参加型の水道施策の検討が先進的ということで報道されている。

本日の会議の到達点

次回の重点施策の議論に向けた基盤づくり



02 令和 6 年度決算の概要について

主要な事業内容①

給水人口

91,692 人

<前年度比 ▲1,857 人>

地域別	給水人口	前年度比
一関	49,410人	▲982人
花泉	11,405人	▲232人
大東	7,707人	▲156人
千厩	6,820人	▲139人
東山	5,002人	▲100人
室根	1,611人	▲ 33人
川崎	3,094人	▲ 81人
藤沢	6,643人	▲134人

普及率

87.75 %

<前年度比 +0.01 %>

地域別	普及率	前年度比
一関	93.6%	▲ 0.6%
花泉	99.6%	+ 0.4%
大東	68.6%	+ 1.1%
千厩	73.0%	+ 0.4%
東山	89.6%	+ 0.9%
室根	38.4%	+ 0.1%
川崎	99.7%	+ 0.6%
藤沢	97.9%	+ 0.2%

有収水量

9,270,618 m³

<前年度比 ▲214,614 m³>

地域別	有収水量	前年度比
一関	5,170,006m ³	▲106,819m ³
花泉	1,067,934m ³	▲ 55,435m ³
大東	685,805m ³	▲ 6,376m ³
千厩	608,794m ³	▲ 19,179m ³
東山	429,726m ³	▲ 19,190m ³
室根	123,454m ³	▲ 1,535m ³
川崎	277,614m ³	▲ 10,165m ³
藤沢	907,285m ³	+ 4,085m ³

主要な事業内容②

建設改良等の状況		水質検査の状況	
脇田郷取水施設の更新	耐震化を目的とした脇田郷取水場の更新に係る立坑築造工事を実施。	1,191件の検査実施	全項目検査（51項目）を実施したほか、平常項目検査（9項目）などを毎月行うとともに、残留塩素の測定を毎日実施し、水質に異常がないことを確認。
本町配水池の建設	本町高区配水池と本町低区配水池を統合して新たに整備する本町配水池建設工事を実施。	放射能検査	上水道31系統の水道水及び水道原水92検体を採水し、放射性物質濃度を測定した結果、放射性セシウムは検出されなかった。
水道施設統廃合調査	東部地区を対象に水道施設統廃合調査を実施。	P F O S ・ P F O A	国の要請に基づき、水道法の水質基準項目に含まれていない「PFOS及びPFOA」の検査を市内の全水源33か所の原水及び3か所の浄水で実施。国が定める暫定目標値（50ng/L）を超えた箇所はなかったものの、市の管理上の判断基準（5 ng/L）を超えた箇所があったため、水質検査強化の継続や水源の取水割合の変更などの対策を継続して実施。
災害対策	災害対策として里前浄水場の非常用発電設備更新工事や老朽化した計測機器など設備の更新を実施。		

令和6年度決算のポイント

給水収益

2,484 百万円

<前年度比 +2.43 %>

純利益

508 百万円

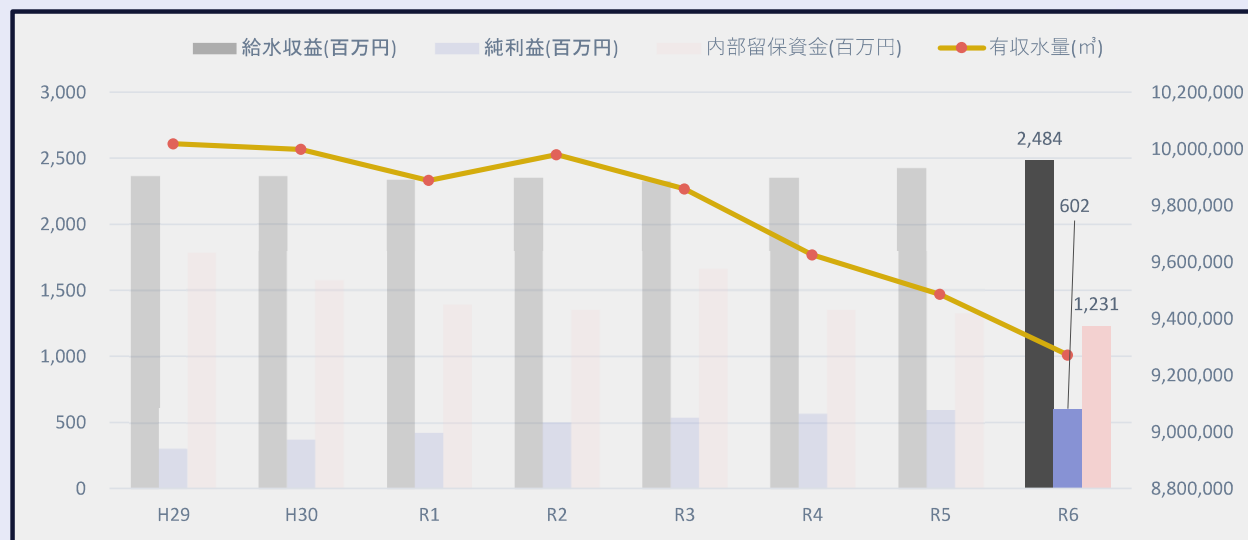
<前年度比 ▲15.47 %>

内部留保資金

1,231 百万円

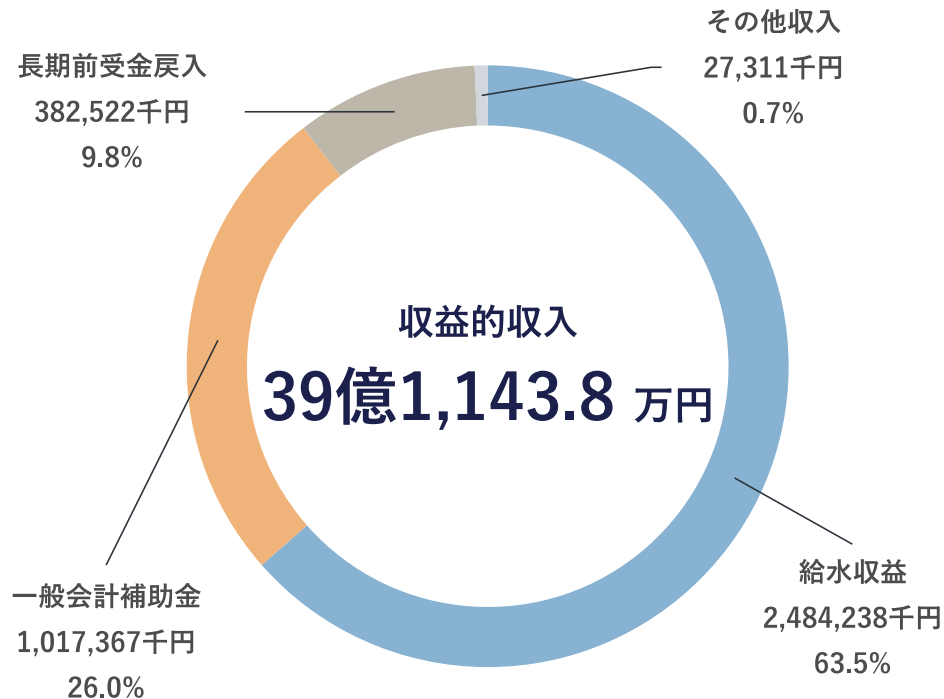
<前年度比 ▲7.02 %>

- 給水収益は、令和6年4月の料金改定により、前年度比2.43%増加するものの、純利益及び内部留保資金についてはともに減少
- 人口減少に伴う水需要（有収水量）の減少に伴い、今後も厳しい状況が予想される

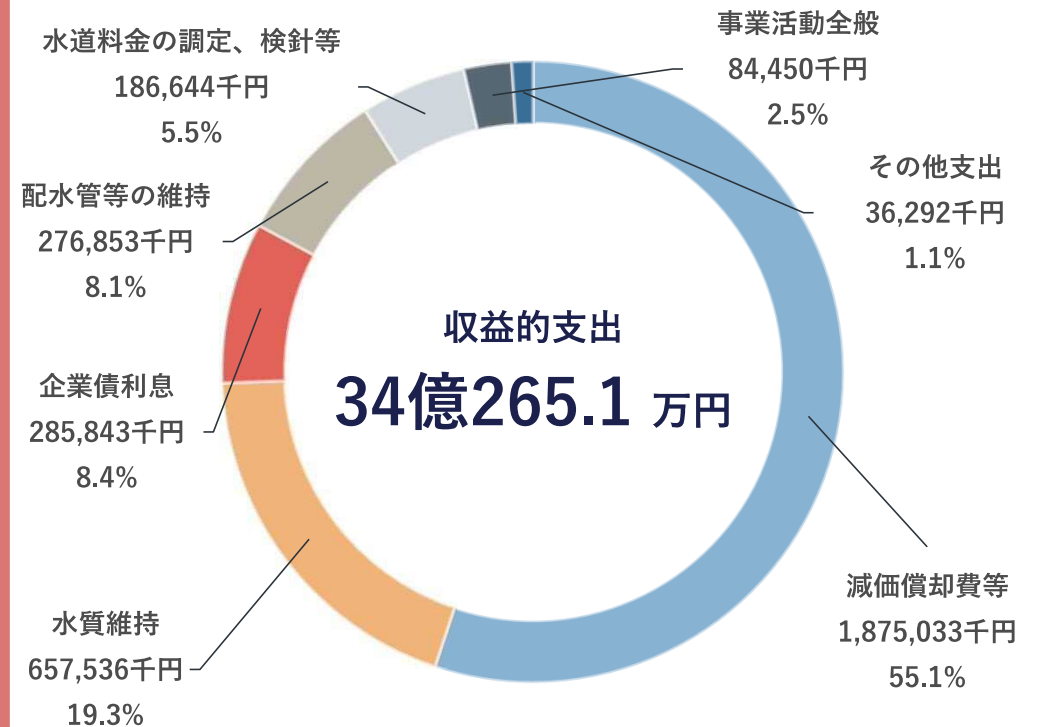


収益的収支(税抜)の概要

収益的収支とは：水道料金収入や、水道水を作る費用など、日常的な経営活動に伴う収入と支出のこと



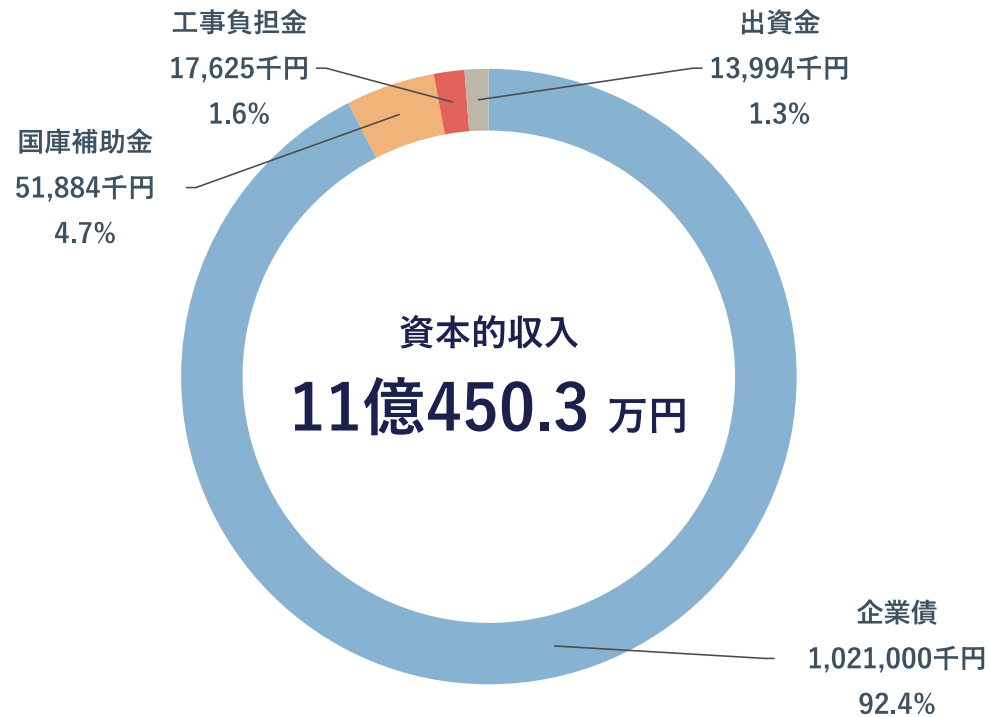
- 営業収益（給水収益等）は、前年度比58,713千円（2.41%）増の2,493,775千円となった
- 営業外収益（一般会計補助金等）及び特別利益は、前年度比66,709千円（4.49%）減の1,417,663千円となった



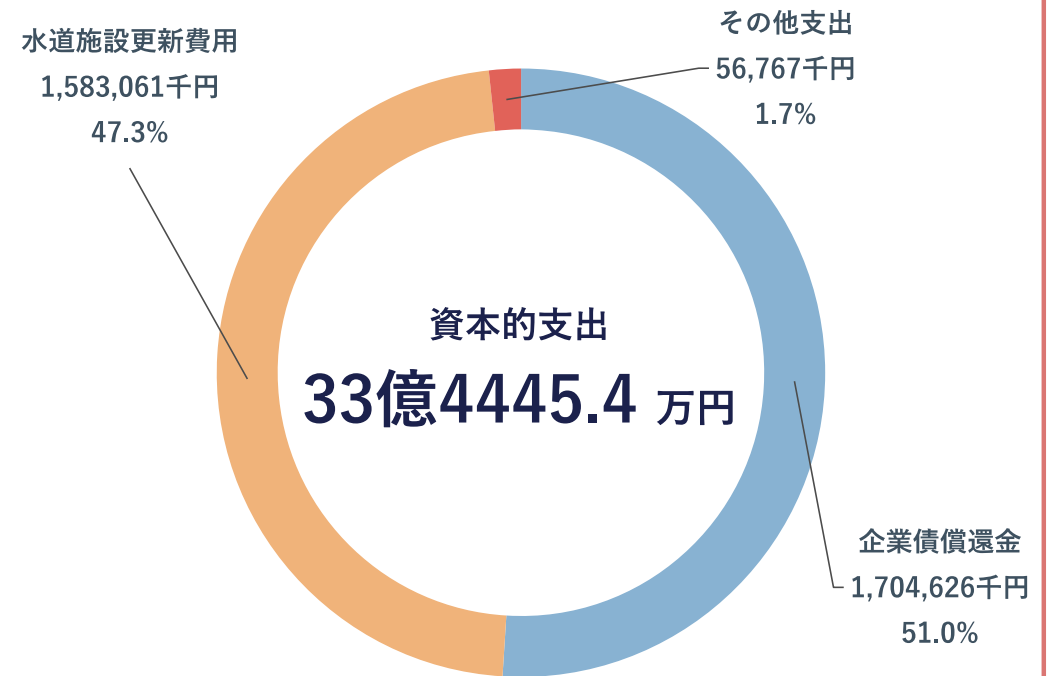
- 営業支出（企業債の支払利息等を除く支出）は、前年度比89,940千円（3.01%）増の3,080,532千円となった
- 営業外支出（企業債の支払利息等）及び特別損失は、前年度比4,822千円（1.47%）減の322,119千円となった

資本的収支(税込)の概要

資本的収支とは：建物や設備などの取得・改良など、
長期的な効果をもたらす収入と支出のこと



- 資本的収入は、収入額の大部分を占める企業債の新規借入額の抑制等により、前年度比132,754千円（10.73%）減の1,104,503千円となった



- 資本的支出は、支出額の半数以上を占める企業債の償還が進んだことに伴う償還金の減少等により、前年度比167,704千円（4.77%）減の3,344,454千円となった

03 「水道の未来を考えるワークショップ」 の開催結果について

『水道の未来を考えるワークショップ』の開催

水道事業の在りたい姿について市民目線の意見を幅広く集めるため、ワークショップを開催しました。

	開催日	場所	備考
一関地域 (14人)	令和 7 年 7 月10日 (木)	一関市役所 会議室棟第 3 会議室	■開催時間について 川崎地域 午後 6 時30分～ 8 時15分 川崎地域を除く 午後 7 時～ 8 時45分 ■テーマ 水道の未来を考える ～安全・安心な水を 飲み続けていくために～ ■協力 いちのせき市民活動センター
花泉地域 (11人)	令和 7 年 7 月25日 (金)	花泉支所 4 階 東大会議室	
大東地域 (7人)	令和 7 年 7 月15日 (火)	摺沢市民センター 2 階 第 2 研修室	
千厩地域 (6人)	令和 7 年 7 月29日 (火)	千厩市民センター 2 階 大会議室	
東山地域		中止	
室根地域 (8人)	令和 7 年 7 月16日 (水)	室根市民センター 集会室	
川崎地域 (12人)	令和 7 年 6 月19 日 (木)	川崎市民センター 研修室	
藤沢地域 (6人)	令和 7 年 7 月23日 (水)	藤沢市民センター 視聴覚室	

ワークショップの概要①【水道の安全に関して】

現状・課題に関する意見

水質の地域差と認識

地域によって水道水の味の評価が異なり、「磐井川から取水している脇田郷浄水場の水は夏場に美味しくない」という声がある一方、「自分の地域の水は美味しい」と評価される地域も

消毒臭とイメージ

水道水の消毒臭が強く感じられる場合があり、水道水のイメージを損ねる要因となっている

安全性への懸念

「放射能を心配して水を買っている人もいる」といった潜在的な不安や、ピロリ菌、PFASなどの具体的な水質懸念がある

インフラの問題

水道管の老朽化による「サビの臭い」や、メーター交換時、消火栓使用時の「水の濁り」が発生している

取組みに関する意見

情報公開と周知

市民は、市が国で定める基準よりも高い基準で水質検査を実施していることを知らない（今回のワークショップで初めて知った）

現在は、検査結果を市のホームページに掲載しているが、多くの人の目に留まるよう様々な媒体で、安全な水を安心して使用できることを周知することが重要ではないか

イメージアップ

「飲める水」としてのイメージ向上策や、浄水場見学、水の飲み比べイベントを定期的の実施してはどうか

安全[Safety]

ワークショップの概要②【水道の強靱に関して】

現状・課題に関する意見

災害時の安定供給

東日本大震災では停電によりポンプが止まり断水した地域があった

市内（特に水源が乏しい地域）で、外国人労働者の増加による水道使用量の増加が懸念される

老朽化対策の遅れ

老朽化による水道管の布設替工事が進んでいない現状や漏水もあり、他自治体で起こった道路陥没事故が身近で起きないか心配

情報連携と可視化の不足

漏水や断水時の情報提供・共有が課題

防災情報と関連して、給水車の配置情報へのニーズも高い

取組みに関する意見

計画的修繕

実質的な耐用年数を意識した計画的な施設更新が必要ではないか
特に漏水が多い箇所や漏水した際に痛手となるポイントを優先的に工事していく必要があるのではないか

情報可視化の推進

断水エリアや給水車情報をアプリなどで情報を取得できるようにしてはどうか

強靱
[Resilience]

ワークショップの概要③【水道の持続に関して】

現状・課題に関する意見

人口減少と費用負担

人口減少や空き家の増加に伴い、既に埋設している水道管などの維持が困難になるのではないかと不安がある

財政基盤の弱体化

給水収益の減少が見込まれ、運営の困難さが増すのでは

住民理解の不足

水道料金の値上げが避けられない状況ではあるが、今が当たり前という認識から、市民の理解が得られにくくなっている

取組みに関する意見

料金体系の透明化と理解促進

水道料金の値上げは避けられないが、「水道使用料金と維持費（施設の更新費用）を分けて明細に記載（可視化）」することで、維持費の理解を促してはどうか

市民への啓発

「水が出るのが当たり前ではない」という意識改革のため、学校での授業や広報紙などでの継続的な啓発活動をしてはどうか

新たな財源確保

市内の上質な地下水を「天然水として販売し、財源とする」といった、水道事業の多角化による収益確保の模索してはどうか

行政による運営維持

「民間委託ではなく、行政責任で水道を運営する」ことへの強い期待と要望

持続
[Sustainability]

